

# 臼杵市スポーツ推進計画

## 改訂版

「ひとり1スポーツ」の実践で  
健康づくり・体力づくり・地域づくり・生きがいづくり



臼杵市教育委員会

令和4年3月

# 臼杵市スポーツ推進計画（概要版）

第2次臼杵市総合計画：日本の心が息づくまち臼杵～「おだやかさ」と「たくましさ」を未来につなぐ～

## 将来像

### 「ひとりスポーツ」の実践で健康づくり・体力づくり・地域づくり・生きがいづくり

## 目標



## 施策の方針

### Ⅰ 健康・体力・人づくり

#### ○子どもの運動習慣 の確立と体力づくり

- ・乳幼児期から楽しむ運動づくり
- ・学校体育の充実
- ・社会体育の充実
- ・栄養・運動・休養のバランス

乳幼児期

学童思春期

青年壮年期

高齢期

### ライフステージに応じた具体的施策



#### ○山内流の継承・発展

#### ○トップアスリートの育成・強化

- ・指導者の養成・確保

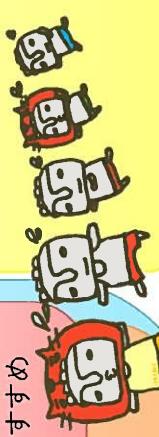
#### ○健康づくり・介護予防 のためのスポーツの推進

- ・生活習慣病予防のための健康教室の開催
- ・健康、体力づくりのためのストレッチ教室、ウォーキング教室の開催
- ・介護予防のための筋力アップ教室、健康教室の実施
- ・指導者やボランティアの育成・活用
- ・障がい者のユニバーサルスポーツの推進

- ・地域で行うウォーキング大会の開催
- ・軽スポーツ大会の開催
- ・三世代で楽しめるスポーツイベントの開催
- ・総合型スポーツクラブへの支援
- ・スポーツ推進委員による地域交流の充実

#### ○スポーツ 環境の充実

- ・スポーツボランティアの育成、活用
- ・スポーツ施設の整備、充実、バリアフリー仕様
- ・スポーツ情報の収集
- ・スポーツ関係団体との連携
- ・スポーツ推進のための財政基盤



## 目次

<b>第1章</b>	<b>スポーツ推進計画改定にあたって</b>	
1	計画改定の趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画の期間	1
<b>第2章</b>	<b>スポーツ推進計画のめざす姿</b>	
1	スポーツ推進の意義及び方向性	2
2	本市のスポーツを取り巻く現状及び課題	3
3	スポーツ推進の将来像及び施策の方針	4
4	臼杵市スポーツ推進計画の全体像（体系図・評価指標）	5
<b>第3章</b>	<b>本市のスポーツ推進施策</b>	
<b>I. 健康・体力・人づくり</b>		
1	子どものスポーツに親しむ習慣づくりと体力づくりの推進	7
2	青年・壮年期スポーツの推進	11
3	高齢者スポーツの推進	12
4	障がい者スポーツの推進	13
5	競技力向上対策の推進	14
6	「臼杵山内流」の継承・発展	16
<b>II. 活動の場づくり</b>		
1	「ウォーキングで健康づくり」の実践	17
2	地域の特性を活かしたスポーツ習慣・活動の場の充実	17
3	スポーツイベント・各種競技大会の充実	18
4	学校体育施設の充実と有効活用	20
<b>III. 基盤づくり</b>		
1	スポーツボランティアの育成	21
2	行政組織とスポーツ関係団体との連携・充実	22
3	スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備 市内屋内スポーツ施設配置図	23 25
	市内屋外スポーツ施設配置図	26
4	スポーツ情報の収集と提供	27
5	スポーツ推進のための財政基盤の確立	28
参考資料		29



## はじめに

本市では、国・県の方針を踏まえつつ、第2次臼杵市総合計画に基づき、平成28年度から10ヶ年を計画期間として「臼杵市スポーツ推進計画」を策定しました。

本計画は、子どもから高齢者までが「ひとり1スポーツ」を推進し、健康づくり・体力づくり・地域づくり・生きがいづくりにより、市民一人ひとりが生涯現役で暮らせるまちづくりをめざすものです。

今回、計画期間の折り返しを迎える、スポーツを取り巻く環境も大きく変化していることから、見直しを行うことといたしました。

さて、昨今のスポーツ振興施策の状況ですが、屋内運動施設の拠点となる諏訪山体育館が令和3年1月にリニューアルし、なかでも有酸素トレーニングの部屋を増設したことから利用者の増加傾向が見られます。また、ウォーキングコースを今年度に3コース新設し、計画していた市内16地域全てに設置することができました。

しかしながら、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響により、各種スポーツ行事は中止を余儀なくされ、市民のスポーツ活動も著しく制限を受けています。

今後も、感染対策を盛り込んだ「臼杵市営体育施設ガイドライン」の徹底を継続し、市民が安心してスポーツ活動を行える環境づくりを提供してまいります。

一方、明るいニュースとしては、昨年4月に新型コロナウイルスの影響で一年延期された「2020東京オリンピック」が開催されました。本市を通過した聖火リレーでは最終区間において、200年の伝統を誇る日本泳法『臼杵山内流』の泳ぎにより聖火が臼杵川を渡り、広くその名をアピールするよい機会となりました。

また、本大会では陸上女子4×100メートルリレーに臼杵市出身の『兒玉 芽生』選手が出場し、世界に通用する走りで、市民に夢と感動を与えてくれました。

結びになりますが、今後のコロナ禍においても、新しい生活様式によるスポーツ活動の在り方について創意・工夫を行いながらスポーツ振興施策を推進してまいります。

また、本計画の見直しにあたり、貴重なご意見、ご提言をいただきました本計画の推進委員の方々をはじめ、ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年3月

臼杵市教育委員会 教育長 安東 雅幸

# 第1章 スポーツ推進計画改定にあたって

## 1 計画改定の趣旨

スポーツは、心身の健全な発達や健康及び体力の保持増進に資するとともに、達成感や充実感などの精神的な充実や喜びを与えてくれています。また、人や地域との交流を促し、地域住民の一体感や活力を生み出すなど、地域の活性化にも重要な役割を果たしており、地域社会の健全な発展に不可欠なものとなっています。

本市では、平成28年度に国・県の方針及び計画をふまえ、第2次本市総合計画「日本の心が息づくまち臼杵～『おだやかさ』と『たくましさ』を未来につなぐ」に定めている「スポーツで健康づくり・体づくり」と「スポーツ環境の充実」の方針に従い、本計画を策定しました。

計画策定から6年が経過し、2019年のラグビーワールドカップや2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックはスポーツに対する国民の期待と関心を大きく引き上げ、本市においても、こうした機運を最大限に活用し、市民のスポーツ活動を推進する必要があります。

しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、本市でもスポーツ活動に大きく制限を受ける状態が続いている。これらの状況や少子高齢化を踏まえ、将来の本市スポーツ施策の方向性を示すために見直しを行うものです。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、平成23年6月制定のスポーツ基本法第10条に基づき、平成24年3月に国で策定された「スポーツ基本計画」を参照し、本市の実情に応じたスポーツ振興のために策定するものです。

本市の総合計画及び社会体育基本方針をふまえた上で、スポーツ推進の将来像を定め、総合的な指針を示すものであり、市民やスポーツ関係者が本計画の目的や内容を共有し、実現に向けて協働で取り組む内容を明らかにするものです。

本計画のスポーツとは、

- ・ルールに基づいて勝敗や記録を競う競技スポーツ
  - ・健康づくりや地域づくりのためのウォーキングや軽スポーツ
  - ・介護予防のためのトレーニング
  - ・学校で行われる体育や運動部活動
- など、多様な身体活動を「スポーツ」として扱っています。

## 3 計画の期間

本計画は、平成28年度（2016年度）を初年度とし、令和7年度（2025年度）を目標年度とした10年間を計画期間としています。今後、国や県の計画の変更や社会情勢の変化、市民ニーズに迅速に対応するため、必要に応じて見直しを行うこととします。

## 第2章 スポーツ推進計画のめざす姿

### 1 スポーツ推進の意義及び方向性

#### (1) スポーツ推進の意義

スポーツは、健康や体力の保持増進はもとより、爽快感や達成感、楽しさや喜びといったものにより、心身の健全な発達を促すことが期待できます。

また、他者との連帯感等の精神的な充足感をもたらすこともあり、青少年の健全育成や地域社会の絆づくり、社会経済での活力の創造など市民生活の中で多面的な役割を担っています。

そのなかでも、競技スポーツは人々に夢や希望・感動を与え、その成果は市民に自信と誇りをもたらすうえに、競技者本人にとっても、生きがいづくりにつながるなど、競技スポーツの推進や競技力向上を図る取組は、スポーツ活動への動機づけにも大きな影響を及ぼすものとなっています。

#### (2) 本市スポーツ推進の方向性

本市では、生涯スポーツを推進し、日常生活の中で子どもから高齢者までが「ひとり1スポーツ」を実践することにより、健康づくり・体力づくり・地域づくり・生きがいづくりにつながると考えています。

また、それらの将来像を実現するための施策の方針として、

I「健康・体力・人づくり」

II「活動の場づくり」

III「基盤づくり」

を掲げ取り組んでいます。

これらの施策ごとの取組として、I「健康・体力・人づくり」では、スポーツに気軽に親しむ機会を提供するため、平成29年より市内各地域に設定しているウォーキングコース等を活用し、地域の活性化を図るとともに、地区住民の健康増進を図ります。

次に、II「活動の場づくり」では、市が主催するさくらマラソン大会や市民スポーツ大会等の開催を継続することにより、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進や競技力の向上をめざします。

また、III「基盤づくり」では、すべての施設において利用者が快適に利用できるような管理運営をめざし、保守点検や老朽化に対応した修繕工事を行うことにより環境整備に努めています。

なかでも、屋内体育施設の拠点となる諏訪山体育館の機能充実を図るため大規模改修工事を行い、令和3年1月にリニューアルオープンし、トレーニング室やトレーニング機器を増設したことで利用者も増加しました。今後、さらに利用促進をはかることで市民のスポーツ習慣の定着に繋がるとともに、高齢者の介護予防にも効果があると考えています。

## 2 本市のスポーツを取り巻く現状及び課題

本市でも、昨今のコロナ禍のなか、身体を動かす習慣が減っている市民に対し、気軽に取り組むことができ、心身の健康づくりはもとより地域づくりや生きがいづくりに貢献できると考えウォーキングや軽スポーツ・健康体操を推進しています。

また、市民に夢や希望、感動を与える競技スポーツの振興と競技力向上の実現に向け、その土台づくりとなるスポーツ環境の充実を進めながら、各関係団体との連携を密にし、トップアスリートの育成強化に努めています。

また、障がい者スポーツについては、障がい者の社会参加を後押しするため、子どもから高齢者まで誰もが気軽に取り組むことができる「ユニバーサルスポーツ」の教室や大会を開催し、普及に努めます。

併せて、下記の社会体育施設の充実を目的とした維持・管理を計画的に実施しながら、それぞれの選手を取り巻くスポーツ環境を整備することにより、競技スポーツの発展やスポーツ振興に寄与できると考えています。しかしながら、市営体育施設は建築年からかなりの期間が経過していることから機能の維持管理やニーズに合った施設整備の充実を図る必要があります。

### 社会体育施設

#### 《臼杵地域》

諏訪山体育館・市民球場・多目的グラウンド・テニスコート・柔剣道場・市民グラウンド・弓道場・相撲場・地域グラウンド・地域体育館・ナイター施設等

#### 《野津地域》

野津吉四六ランド（陸上競技場・球場・テニスコート・ゲートボール場）

地域グラウンド・地域体育館



【臼杵市諏訪山体育館】



【臼杵市民球場】



【野津吉四六ランド】

### 3 スポーツ推進の将来像及び施策の方針

#### «将来像»

「ひとり1スポーツ」の実践で 健康づくり・体力づくり・地域づくり・生きがいづくり

#### «目標»

1. 健康づくり・体力づくり・地域づくりをすすめるスポーツ活動の推進
2. 活力を与える競技スポーツの振興と競技力向上
3. 指導者の養成及び資質の向上・指導体制の確立
4. 日本泳法「臼杵山内流」の継承・発展
5. 計画的な施設整備による管理の充実

#### «施策の方針»

##### I. 健康・体力・人づくり

誰もがそれぞれのライフステージにおいて、日常的にスポーツに親しむことは心身ともに健康で、生涯をより豊かに生きていく上で大切なことです。特に、子どもの頃からスポーツ習慣を身につけることが必要です。子どもたちは、遊びや様々な活動を通して、スポーツの楽しさや喜びを体験し、体力や運動能力の向上を図るとともに、仲間との触れ合いを通して豊かな社会性や人間性も養います。

また、大きな大会で活躍する選手や指導者たちは、実績を残すことで生きがいを感じ、豊かな人生を送ることとなり、技能を高め記録に挑戦する姿は、人々に大きな夢や希望・感動を与えることも期待できます。

##### II. 活動の場づくり

地域住民の日常的なスポーツとしてのウォーキングや地域の特性を活かした多様なスポーツの場を提供することにより、スポーツを通して交流の輪が広がり地域の活性化が図られます。なかでも、学校スポーツ施設が、地域のコミュニティースペースとして有効に活用されることにより、学校・家庭・地域が連携し、地域全体で子どもたちを見守り育てていくことで、地域の教育力が向上し、地域力も高まります。また、各種スポーツイベントや競技大会の充実を図るとともに、総合型スポーツクラブの支援も行います。

##### III. 基盤づくり

市民ニーズに対応したスポーツ情報を収集し提供することは、スポーツを実践するきっかけづくりにつながります。継続したスポーツ振興のためには、行政組織やスポーツ関係団体の連携、スポーツ推進のための人材確保や支援体制の充実が必要です。

特に、日常的なスポーツの場や大会会場となる市営体育施設について、長期的な視点に立ち計画的に整備し管理運営するための財源確保が必要となります。

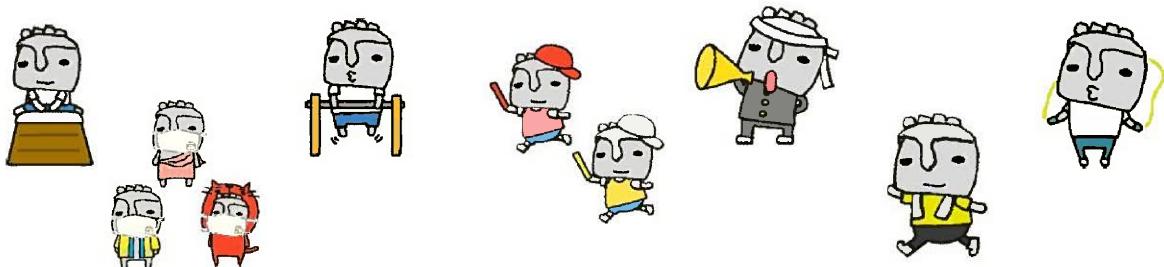
# 日杵市スポーツ推進計画～体系図～

テーマ	項目別テーマ	現状と課題	目標	具体的な取組(抜粋)
I 健康・体力・人づくり	1 子どもがスポーツに親しむ習慣づくりと体力づくりの推進 2 青年・壮年期スポーツの推進 3 高齢者スポーツの推進 4 障がい者スポーツの推進 5 競技力向上対策の推進 6 「山内流」の継承・発展	○時間・空間・仲間等による体力の低下 ○学校、家庭、地域が連携した取り組みの推進 ○仕事や家事によるスポーツ実施者の減少 ○職場や地域で参加しやすいスポーツ環境の推進 ○超高齢化社会における医療費等の増加 ○健康寿命延伸のためのスポーツの推進 ○障がい者のスポーツ参加や指導者・ボランティアの不足 ○全国レベルで活躍する競技者の増大 ○競技団体や指導者・諸条件の整備 ○生徒数や指導者数の減少 ○伝統文化継承のための諸条件の整備	○元気でたくましく生きる力を身につけた子どもたちの育成 ○アスカスティジや競技レベルに応じたスポーツに自主的に参加する青年・壮年の育成 ○生涯現役で過ごし、生きがいを感じる高齢者の増加 ○障がい者がスポーツの推進と障がい者との交流機会の拡大 ○国際大会や全国大会で活躍できるトップレベルの競技者の発掘・育成 ○「山内流」の技と精神を継承する取組みの強化	○乳幼児期から楽しむ運動習慣つくりの推進 ○学校体育の充実 ○子どもを取り巻く社会体育の充実 ○栄養・運動・休養のバランスの充実 ○気軽に組める健康・体力つくりの推進 ○職場や地域で交流できる人がスポーツの支援 ○健康・体力つくり、介護予防につながる教室やバーチの開催 ○指導者の養成と活用 ○情報の提供 ○障がい者のエバーサルスポーツの普及 ○指導者の養成とスポーツの確保 ○選手の発掘・育成・強化 ○組織の整備・充実 ○指導体制の整備 ○山内流游泳所の充実 ○入所生徒数の拡大 ○指導体制の整備 ○正しいケーリング方法の普及 ○指導者の発掘・養成 ○豊かな自然や歴史を生かしたびわっこ環境の整備 ○近隣の自治体と連携したびわっこ推進 ○地域振興協議会等地域ネットの充実・支援 ○地区が「協会や競技団体等との連携、 ○学校体育施設・設備の整備・充実 ○地域交流の場づくり ○指導者の交流促進 ○ボランティア参加者の開拓と拡大 ○研修会の開催とボランティア登録 ○横断的なスポーツ推進体制の整備 ○市町が「協会や競技団体と連携した情報提供 ○財政基盤の確立と限られた財源の有効活用 ○助成事業等の積極的な活用
II 活動の場づくり	1 「ウォーキングで健康づくり」の実践 2 地域の特色を活かしたスポーツ習慣・活動の場の充実 3 スポーツイベント・各種競技大会の充実 4 学校スポーツ施設の充実と有効活用	○健康づくり・地域づくりのためのキャラクターの普及が必要 ○指導者の確保・専門機関との連携 ○地域のスポーツ資源の活用が不十分 ○施設や設備の整備と広報活動の充実 ○参加者の減少や年齢の偏り ○イベントの実施方法や広報活動の充実 ○学校体育施設の開放と有効活用の必要性 ○地域に根差したスポーツ活動の場としての整備充実	○地域におけるウォーキングイベントの実施促進 ○身近にある自然環境や生活環境を生かしたスポーツの推進 ○夢や希望を与え、地域の活性化に寄与する三世代交流などの活動の推進 ○地域住民が気軽にスポーツに親しみ、交流できる学校施設の充実	
III 基盤づくり	1 スポーツボランティア活動の育成 2 行政組織とスポーツ関係団体との連携・充実 3 スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備 4 スポーツ情報の収集と提供 5 スポーツ推進のための財政基盤の確立	○ボランティアへの参加機会が不十分 ○継続的な活動の推進と研修機会の創出 ○横断的な組織間の連携が不十分 ○関係団体との連携・充実 ○スポーツ施設の老朽化、支援体制が不十分 ○計画的な施設整備・充実 ○ニーズに対応できる人材の育成 ○情報提供方法の工夫と内容の充実 ○財政基盤の確立と限られた財源の有効活用	○行政組織間の連携強化とスポーツ関係団体の充実 ○ボランティア参加者の育成と継続した取組の推進 ○行政組織間の連携強化とスポーツ関係団体の充実 ○スポーツ施設の計画的な整備の充実 ○スポーツ活動を支える支援体制の整備 ○多様なニーズに対応できる人材の育成 ○情報の収集と提供 ○市町が「協会や競技団体と連携した情報提供 ○市報やホームページ・マスコミ等と連携した情報提供	

「ひとり1スポーツ」の実践で  
健康づくり・体力づくり・地域づくり・生きがいづくり

【評価指標】

方針	目標	取組指標	R3現状	R7目標
I 健 康 ・ 体 力 ・ 人 づ くり	1 子どものスポーツに親しむ習慣づくりと体力づくりの推進	ベビーとママ、幼児とママの体操教室参加親子数(実数)	ベビー10組180人	ベビー20組/幼児25組
		スポーツ少年団登録者数	371人	380人
		スポーツ少年団登録数	22団	24団
		中学校における運動部活動参加率	46.90%	60.00%
	2 青年・壮年期スポーツの充実	競技団体登数	30団体	32団体
		健康マイレージ参加者数	687人	800人
II 活 動 の 場 づ くり	3 高齢者スポーツの推進	諏訪山体育館トレーニング室利用者数	13,836人	14,000人
		軽スポーツ大会	中止	40,000人
		65歳以上の運動習慣の割合	不明	男性64.0%/女性60.0%
	4 障がい者スポーツの推進	バリアフリー仕様の市内体育施設数	1	1
	5 競技力向上対策の推進	競技スポーツ指導者のうち有資格者数	64人	80人
		スポーツ協会表彰者数	96人	180人
		九州大会以上の上位大会出場する競技者数(団体数)	7	70
		九州大会以上の上位大会出場する競技者数(延べ人数)	46人	150人
	6 「山内流」の継承・発展	游泳所入所の生徒数	15人	100人
		小学校実技教室実施回数	中止	26回
III 基 盤 づ くり	1 「ウォーキングで健康づくり」の実践	ウォーキング大会参加者数	中止	2,000人
		ウォーキング教室参加者数	中止	500人
	2 地域の特色を活かしたスポーツ習慣・活動の場の充実	看板設置ウォーキングコース／コース設定	16ヶ所	16ヶ所
		市民スポーツ大会参加者数	中止	1,600人
		さくらマラソン参加者数	中止	1,000人
	3 スポーツイベント・各種競技大会の充実	地域振興協議会主催スポーツイベント実施数	15回	20回
		各地区3世代交流スポーツ大会参加者数	中止	1,500人
	4 学校スポーツ施設の充実と有効活用	県立学校開放事業年間利用日数	68日(1校)	80日(1校)
		学校体育施設開放数	18校(市内全校)	18校
IV 基 盤 づ くり	1 スポーツボランティア活動の育成	スポーツ関係団体等の研修会	年1回	年2回
	2 行政組織とスポーツ関係団体の連携・充実	スポーツ推進委員の活動回数	3回	20回
	3 スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備	諏訪山体育館トレーニング室における指導回数	192回	300回
	4 スポーツ情報の収集と提供	SNS発信回数	14回	年24回
	5 スポーツ推進のための財政基盤の確立	社会教育課所管のスポーツ施設利用者数	203,642人	210,000人



## 第3章 本市のスポーツ推進施策

### I 健康・体力・人づくり

#### 1 子どものスポーツに親しむ習慣づくりと体力づくりの推進

##### (1) 現状と課題

「令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」をもとに、本市の子どもたちの傾向を見ると、【体格調査】で、身長は全国平均より低いが、体重は全国平均より重く、肥満度も全国平均を上回る結果となっています。今後は、体脂肪率の検証を行うことや、栄養教諭等と連携した食育指導の充実に向けた取組も必要と考えられます。

【実技調査】では、下記に示すように、小中、男女すべてが全国平均を上回っており、小中学校での体力向上の取組の成果が結果につながったと考えられます。

今後はさらに、これまでの取組を継続するとともに、運動嫌いの生徒児童へのアプローチを検討するほか、コロナ禍における児童生徒の運動機会の確保に努め、健康増進を図る取組が必要となります。

##### 【実技調査】

※体力測定値が中位以上の割合

- ・ 小学校男子 (白杵市 77.3%、全国 63.9%) 全国比 + 13.4%
- ・ 小学校女子 (白杵市 87.3%、全国 72.3%) 全国比 + 15.0%
- ・ 中学校男子 (白杵市 69.3%、全国 67.3%) 全国比 + 2.0%
- ・ 中学校女子 (白杵市 90.1%、全国 85.7%) 全国比 + 4.4%

子どもの体力低下は、生活の利便性の向上に伴い日常的に体を動かす機会が減少したことや、学校での授業以外の運動時間の減少、スクリーンタイム（1日あたりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等の視聴時間）の増加、肥満児童・生徒の増加、朝食を食べない児童（小学生）の増加等がその原因として考えられます。

それらを防ぐためには、子どもの頃から積極的に外遊びやスポーツに親しみながら身体を動かす習慣を身につける必要があります。特に小学校低学年の時期は、遊びや運動を通して身体の動かし方を学び、脳の発達を促すため、日常生活の中で運動習慣を定着させることが、知力や精神力の向上のためにも必要です。

##### (2) 目標

外遊びや自然体験活動等により、子ども自らが運動する意欲と行動力を培い、積極的にスポーツに親しみながら正しい生活習慣が身につくよう努めます。また、学校教育や社会体育の中でのスポーツ体験や集団行動によって、元気でたくましく生きる力を身につけた子どもたちを育成します。

### (3) 具体的な取組

#### 1) 運動習慣の確立への支援

##### ①乳幼児期から楽しむ運動習慣づくりの推進

○乳幼児期から身体を動かすことは運動機能を高めるのに効果的で、運動習慣の確立のために大切です。また、運動することにより脳が刺激を受け、子どもの身体活動に良い影響をもたらします。なかでも、乳幼児期から学童期において、親子で楽しみながら身体を動かすことにより、自然に基礎体力もつき、病気への抵抗力や治癒力が高まります。社会教育課では家庭教育の推進を目的に「乳幼児とママのヨガ教室」、小学生を対象とした「にこにこ体操くらぶ」の定期的な開催を継続していきます。

○各種事業や乳幼児健診等で子どもの発育・発達の段階に応じた適切な指導ができるよう小児科医や各種専門職をはじめ、保育所や幼稚園、認定こども園、小学校との連携を促進します。

#### 2) 子どもの体力づくりへの支援

##### ①学校体育の充実

###### (小・中学校)

○学校体育は、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育てるこことや体力の向上を図ることを目的としています。そのため、教職員が児童・生徒の発育・発達段階の特性を考慮し、個々に応じた指導ができるよう、研修会等に積極的に参加するとともに、保健体育の教師及び体育専科教員を中心として指導力や資質の向上を図ります。

○学校全体での体力向上対策として、小・中学校ごとに「体力向上プラン」を作成し、プランに沿った「1校1実践」に取り組み、その取組を検証・改善しながら体力向上を推進しています。

○学校教育の一環として行われる運動部活動は、スポーツに親しむとともに、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資する重要な場です。さらに、心身をリフレッシュさせるだけでなく、仲間とともに自主的・自発的に行う活動が多くの生徒に喜びと生きがいをもたらし、学校生活を豊かで充実したものにします。また、スポーツの専門的技能や知識を身に付け、生涯にわたってスポーツに親しむとともに、体力の向上や健康増進を図ります。

しかしながら現状として、生徒数の減少等により学校単位のチーム編成が難しくなっていることや、「教職員の働き方改革」が進む中、生徒の多様なスポーツニーズに対応する取組が必要となっており、「部活動指導員制度」や「拠点型運動部モデル実践事業」の導入など、地域スポーツ指導者を積極的に活用するための取組を進めます。

(高等学校)

○大分県立臼杵高等学校

県南地域の進学拠点である臼杵高等学校は、  
「この地で学ぶ この地で伸びる この地で輝く」を学校のスローガンとして掲げ、文武両道の高校として様々な活動を行っています。

部活動は体育部として陸上・水泳・剣道・卓球・野球・ソフトテニス・バスケットボール・バレーボール・サッカー・ラグビーフットボール・柔道の競技部・同好会があるほか、文化部としては箏曲・書道・ユネスコなどの部活動を行っています。

また、女子を中心にダンス愛好者が集まり自主的な練習を重ね文化祭や各種イベントで発表を行っています。

高い志を持って主体的、自律的に挑戦する「勤勉」な人材や「誠実」な姿勢から培われる豊かな人間性と気力、体力を有した人材の育成に取り組んでいます。

令和3年度の部活動全体の入部率は87.9%で、運動部の入部率は64.5%です。



【臼杵高校野球部】



【臼杵高校バレー部】

○大分県立海洋科学高等学校

県内唯一の水産・海洋系高校として実践的・体験的な学習活動や創作工夫を生かした特色のある教育活動を通じて、水産や海洋教育の充実を図り、水産・海洋関連を中心とした産業社会を担う職業人の育成をめざしています。

部活動は、体育部としてボート・ヨット・バドミントン・テニス・バスケットボール（同好会）、文化部として将棋・水産・マリンサポートーズ（同好会）など海洋科学高校の特色を活かした活動を行っています。



【海洋科学高校ボート部】



【海洋科学高校カッター部】

## ②子どもを取り巻く社会体育の充実

- 各種スポーツ団体と行政が連携し、適切な指導が行われるよう、指導者の資質の向上をめざすため定期的な研修を行います。
- 指導者の減少も課題であるため、競技者から指導者というサイクルの構築に向け、スポーツ少年団等が行う指導者講習会を積極的に支援します。
- スポーツ活動についての情報を提供し、本市スポーツ協会等の関係団体と連携を深めます。子どものスポーツへの参加機会を増やすため、未加入の団体に対して本市スポーツ少年団への加入を積極的に働きかけていきます。

## ③栄養・運動・休養のバランスの充実

保護者が正しい知識を持って、家庭での栄養・運動・休養の取組を充実させることが必要です。そのための健康教室や情報提供を保険健康課が中心となって行います。

### (食育の充実)

- 食べることは、生きるうえでの基本です。望ましい食習慣を身に付ける観点から、栄養教諭、学校栄養職員、地域の生産者や保護者と積極的に連携し、発達段階に応じた食に関する指導やアレルギー等の健康課題を有する子どもに対して個別指導を行うなど学校での食育を推進します。
- 【食育推進計画】は、「臼杵の食材の良さを活かし、健康的でおいしい食卓を笑顔で囲み、未来につながる健康長寿のまちをめざす」を基本理念に、家庭、保育所等、幼稚園、学校、地域、関係機関、行政などが一体となって取り組んでいます。

### (休養・睡眠の充実)

- 基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん」は、子どもの成長のために不可欠であり、学校通信や保護者への研修会等により家庭への啓発に努めます。



【スポーツ少年団指導者養成講習会】



【スポーツ少年団交流駅伝大会】

## 2 青年・壮年期スポーツの推進

### (1) 現状と課題

青年・壮年期の人々がスポーツに親しむことは、個人の楽しみや健康・体力づくりにとどまらず、職場や地域の活性化をはじめ、スポーツに親しむ子どもたちの増加にも寄与することが期待されます。

学校を卒業し、就職・結婚・育児などライフステージが変化する青年・壮年期は、一般的に仕事や家事が生活の中心となるため、スポーツへ参加する機会が減少する傾向が見られます。このような中、時間や場所を工夫した個人の主体的な取組を推進するとともに、職場・地域・家庭において、それぞれのライフステージに応じてスポーツに取り組める環境の整備が必要です。定期的なスポーツの実施は、生活習慣病の予防にも有効であることから関係機関等と連携した健康・体力づくりなどの取組を通して、社会全体でスポーツに対する意識を高めることが必要です。

### (2) 目標

生活習慣病予防のための健康・体力づくりの教室への参加を促し、個人のスポーツへの主体的な取組の推進を図ります。ライフステージや競技レベルに応じたスポーツに取り組むことができるよう環境の整備を行います。また、関係機関等と連携した取組を通して、定期的にスポーツに親しみ、仲間やチームでの親睦が深められる青年・壮年を育成します。

### (3) 具体的な取組

#### ①地域における健康づくり・体力づくりの推進

- 健康や体力への関心を高め、安全にウォーキングを行うため、地域振興協議会等でウォーキング教室やウォーキング大会の開催を推進します。また、それらの開催時に、「ストレッチや正しいウォーキングの指導」を企画し、運動習慣の定着に努めます。
- 地域住民が自ら進んで健康づくりや地域づくりができるよう、市内16か所に設定したウォーキングコースを広く周知することにより利用促進を図るほか、ウォーキングイベントの開催を企画し、身近で気軽にスポーツを楽しめる環境を整備します。
- 自宅で簡単に行えるストレッチや筋力トレーニング・ヨガなど、健康・体力づくりに有効と思われる内容の教室を、諫訪山体育館を中心に各地域でも行えるよう支援します。



【ウォーキング教室】



【ストレッチ教室】

## ②職場や関係機関等と連携した取組

- 生活習慣病予防の観点から、日常生活の中で取り組める健康・体力づくりに関する情報発信や健康運動指導士などによる運動プログラムの提供、保健師による健康教室の開催などを推進します。
- 地域資源を活用したウォーキングをすすめるため、地域振興協議会と連携し、楽しみながら健康づくりを行うことができる機会の提供に努めます。
- スポーツイベントの開催や啓発等を行い、生涯にわたりスポーツに親しむ生活習慣の定着を図ります。

## ③青・壮年層を取り巻くスポーツ環境の充実

- スポーツ推進委員を中心としたスポーツボランティアを活用し、スポーツイベントの実施をサポートします。
- 青・壮年層の生活実態をふまえ、スポーツを苦手としている人や、日頃スポーツに取り組む機会の少ない人を対象とした教室や大会の開催に努めます。

## ④総合型地域スポーツクラブへの支援

- 誰でも気軽に参加でき、世代間の交流もできるスポーツイベントを通じて、身近な地域で継続的にスポーツに親しめる総合型地域スポーツクラブに対して、講師派遣やスポーツ用具の貸与などの支援を行います。

## 3 高齢者スポーツの推進

### (1) 現状と課題

高齢者が自らの健康管理に努め、スポーツを通して生きがいを見出し、社会活動に積極的に参画していくことは、地域社会にとっても大きな意義を有しています。

本市の高齢者が参加する亀城学園や亀城大学、白寿大学、老人クラブの活動では、健康体操や太極拳・グラウンドゴルフなどの健康づくりに取り組んでいます。

また、諏訪山体育館トレーニングルームの利用者も年々増加しているため、高齢者が安心してトレーニングできるような環境づくりを継続する必要があります。



【グラウンドゴルフ大会】

### (2) 目標

初心者をはじめ高齢者を対象とした筋力トレーニング教室を開催し、健康づくりや介護予防につなげます。また、高齢者が日常的に身体を動かす習慣を増やすために身近な環境で手軽

に行えるウォーキングを推奨し、市内に設定したウォーキングコースの利用促進を図ることで、高齢者の生きがいづくりや健康寿命の延伸をめざします。

### (3) 具体的な取組

#### ①健康づくり・介護予防の推進

亀城学園・亀城大学・白寿大学、各地区地域振興協議会や老人クラブ等の活動の中で、健康新体操や教室・ウォーキング大会等の開催を支援します。また、高齢者のニーズに対応したスポーツ活動が日常的に行えるよう、環境整備に努めます。

#### ②指導者の養成と活用

「ひとり1スポーツ」の推進のために、ウォーキングや軽スポーツの専門的な知識を有するスポーツ推進委員協議会をはじめとする関係機関と連携し、指導者の養成を継続します。

身体に不安を抱えウォーキングを行うことができない高齢者に対しては、家庭でもできる介護予防のための筋力アップトレーニングや健康新体操・ストレッチの普及が効果的です。そこで専門機関と連携し、市が実施する健康教室や介護予防教室への参加を推奨します。

#### ③健康・体力づくりなどの情報提供

高齢者のスポーツへの興味・関心を高めるとともに、親睦が図られるよう、関係機関と連携しながら、高齢者への健康・体力づくりに対する情報提供を積極的に行います。

## 4 障がい者スポーツの推進

### (1) 現状と課題

障がい者がスポーツに参加することは、自立や社会参加の促進にもつながります。これらを通して社会の理解が一層深まり、ノーマライゼーション※1社会の実現への一助となることも期待されます。しかし、障がい者スポーツの普及や競技力の向上に不可欠な指導者やボランティアが不足しており、スポーツに親しめる環境が不十分です。そこで、誰もが気軽に取り組むことができるユニバーサルスポーツを普及させるとともに、地域でスポーツを通して気軽に交流できる機会の創出が必要です。

※1 障がい者と健常者とが、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常であり、本来の姿であるという考え方



【ボッチャ研修会】

### (2) 目標

多様なニーズに対応できる指導者やボランティアを養成・確保するとともに、障がい者スポーツにおける競技人口の拡大に向け、県や他市と連携を図り、障がい者スポーツの推進に

努めます。また、市民が障がい者スポーツに対する理解を深めることを目的に、イベント等を開催し、交流の機会を増やします。

### (3) 具体的な取組

#### ①ユニバーサルスポーツの普及

- 気軽に取り組めるユニバーサルスポーツの普及や情報提供に努めることにより、交流機会の拡充を図り、障がいに対する理解を促進します。
- 障がい者スポーツの普及に対するニーズの把握に努め、施設整備を行う際にはバリアフリー仕様とするなど、スポーツに親しめる環境整備に努めます。

#### ②障がい者スポーツの指導者の育成とボランティアの確保

- 障がい者スポーツの指導者育成や大会開催時のボランティアの確保に努めます。
- 県障がい者スポーツ大会への参加や全国大会への選手団の派遣を支援します。また、県障がい者スポーツ協会等と連携し、競技力向上や競技団体の活動推進に努めます。

## 5 競技力向上対策の推進

### (1) 現状と課題

オリンピック等の国際大会や国民体育大会等の日本トップレベルの大会で本市の選手が活躍する姿は、多くの市民に夢と感動を与えるとともに、スポーツへの興味や関心を高めます。

それらにより、郷土への誇りと市民の一体感を生みだすなど、活力ある健全な社会の形成にもつながるものです。

昨年、コロナ渦により1年延期された「東京2020オリンピック」では、本市出身の「児玉芽生」さんが、女子4×100mリレーに出場し、エースとして第2走者で快走する姿を見せ、白樺市民に夢や希望のみならず、スポーツ界全体に活力を与えてくれました。

今後は、国民体育大会はもとより、オリンピック等の国際大会でも活躍できる選手の育成強化に向けて、県スポーツ協会をはじめ、本市スポーツ協会、各競技団体、学校等と連携を図りながら、組織の整備・充実、指導体制の充実・強化、選手の発掘・育成・強化をはじめ、諸条件の整備が必要です。

### (2) 目標

トップレベルで活躍できる競技者の発掘や育成・強化を図るため、各競技部の組織強化や指導体制の充実をはじめ、大会出場に関する環境整備に取り組みます。

### (3) 具体的な取組

#### ①選手の発掘・育成・強化

- 競技スポーツ人口の増加や、子どもたちがスポーツに親しむことができる機会を増やすため、学校や競技団体、企業等と連携し、スポーツ教室やトップアスリートとふれあうことのできる体験型のイベントを開催します。

- 各競技団体や学校体育団体等と連携し、各競技の特性や選手の発達段階にあわせて一貫した指導理念に基づく指導が展開されるよう取組を支援します。
- 臼杵市スポーツ協会と連携し、選手強化や競技力向上に向けた取組を推進し、九州大会以上の出場者に奨励金を交付し支援を行います。
- 素質のあるジュニア選手を早期に発掘できるよう、大分県が行う独自のトップアスリート発掘・育成システムに協力し、トップアスリートの育成を推進します。
- プロや実業団等のチームと連携し、スポーツ教室の開催を推進していきます。



【プロ野球チームによる野球教室】

## ②組織の整備・充実

- トップアスリート発掘・育成のため、県スポーツ協会や各競技部と連携し、選手の育成・指導方法について研究を行うなどの取組を進めます。

## ③指導体制の充実・強化

- 指導者の養成・確保と資質の向上を図るため、スポーツ協会に所属する競技団体、学校体育団体等と連携し、各種競技指導者研修会を実施するほか、公認スポーツ指導者の資格取得を推進します。
- 中学校運動部活動は、競技者養成の重要な基盤となるため、優秀な指導者により競技者が能力を最大限に発揮できるよう、関係機関等と連携し、その条件整備に努めます。



【兒玉芽生選手市長報告】



## 6 「臼杵山内流」の継承・発展

### (1) 現状と課題

山内流は、旧伊予松山藩士山内久馬勝重が文政5年（1822年）に、水術を稻川清記に伝授したことにより始まり、昭和41年には大分県無形文化財に指定されました。786名の卒業者の中には昭和7年ロサンゼルスオリンピック高飛び込み競技で活躍した石田英勝氏がいます。また、昭和39年開催の東京オリンピックでは、公開演技を披露し、令和3年2020東京オリンピックの聖火リレーでは臼杵川を泳いで渡り、全国にその名をアピールする良い機会となりました。

全盛時には約600名いた生徒数も一時は55名と減少したため、子どもたちに山内流の体験を通じ水泳への興味関心を持たせることを目的に、平成8年より市内の小学校3年生を対象に体育の授業の中で「山内流実技教室」を始めました。その結果、近年では生徒数が100名程度に増加しましたが、引き続き生徒の確保はもとより、泳法の継承や指導者の確保が大きな課題となっています。

### (2) 目標

日本泳法13流派の一つである「臼杵山内流」の技と精神を後世へ継承するため、学校等と連携し、泳法習得者や指導者の拡大を図ります。

### (3) 具体的な取組

游泳所の紹介や入所について、メディアやSNS等で情報を発信します。また、令和3年には「山内流協議会」を設置し、今後の伝統継承等について協議を進めています。



【山内流授業の様子】



【遠泳の様子】

## II 活動の場づくり

### 1 「ウォーキングで健康づくり」の実践

#### (1) 現状と課題

運動がメンタルヘルスや生活の質の改善に効果をもたらすことはすでに認められており、手軽にできるスポーツとして、ウォーキングの効果も広く知られています。

市民一人ひとりが生涯にわたり「ひとり1スポーツ」を日々実践していくためには、日常生活で身体を動かすことの必要性を理解し、1日の歩数を増やすなど楽しみながら行える運動習慣の定着をめざします。

そこで、市内16か所に設定したウォーキングコースの利用促進を図るためウォーキングイベントの開催を企画するなど、市民の健康増進や地域コミュニティの活性化を図る取り組みが必要となります。

#### (2) 目標

「ひとり1スポーツ」の要として「ウォーキングで健康づくり」を推進します。気軽に取り組むことができ、地域のコミュニティづくりができるスポーツとして、正しい知識の普及を行い、各地域で行うウォーキングイベントの実施を促進します。

#### (3) 具体的な取組

##### ①正しいウォーキング方法の普及と指導者の発掘・養成

ウォーキングの正しい姿勢や方法、ウォーキング前後のストレッチや水分補給について学び、正しい知識を身につけることができる教室等を開催します。また、専門機関と連携し指導者の発掘・育成にも努めます。

##### ②地域交流のための支援

○ウォーキングの楽しさを味わいながら、心と体の健康づくり・地域づくりができるウォーキング大会の開催及びウォーキングの普及活動を行う団体を支援します。

○市内のウォーキングコースを取りまとめた、マップを作成します。

### 2 地域の特性を活かしたスポーツ習慣・活動の場の充実

#### (1) 現状と課題

スポーツによる交流の場を創出し、地域の活性化に寄与することは大きな意義を有します。本市の恵まれた豊かな自然は、スポーツ資源として四季を問わずアウトドアスポーツが楽しめる環境が身近にあります。昨今のアウトドアブームの流れもあり、本市の自然を活用するため、近隣の自治体と連携し、社会体育施設の利用促進をはじめ、ウォーキングや登山・サイクリング・マリンスポーツなどのスポーツの観光資源としての活用を模索します。

## (2) 目標

近隣の自治体と連携し、地域の潜在的なスポーツ資源の発掘と関連施設の相互利用、観光資源等と組み合わせたスポーツツーリズム※1を推進します。また、産業観光課と連携しインターネット等を活用した情報提供を積極的に行い、広く県内外からの人の交流を生み出す場づくりに取り組みます。

※1 スポーツイベントへの参加・観戦、スポーツ関係施設の訪問などを目的とした滞在型の余暇活動

## (3) 具体的な取組

### ①豊かな自然を活かしたスポーツ環境の整備

本市には、鎮南山や白馬渓など各地域に歴史ある豊かな自然環境が残っており、市民の憩いの場やハイキングコースとして親しまれています。

また、県内唯一の水産・海洋系の学校である県立海洋科学高校は、臼杵川河口でカッターやボート競技の練習を行っています。

新たに、海・山・川などの豊かな自然を活かしたマリンスポーツや登山等のアウトドアスポーツを推進するため、トイレや駐車場等の整備について関係機関と協議をすすめます。

### ②身近で取り組めるスポーツ環境の整備

トリムコースや臼杵公園・諏訪山にある臼杵市総合公園や野津地域の吉四六ランドなどを利用し、気軽にウォーキングやジョギングしたり自然の中で遊んだりできるような市民に愛される施設の運営に努めます。今後、港湾整備が進み芝生公園などの整備も期待されていますので、心の健康づくりができる憩いの場やふれあいの場となるよう関係機関へ働きかけます。

### ③近隣の自治体と連携したスポーツの推進

隣接する自治体やフェリーでつながる四国との連携を模索し、サイクリングやウォーキング等のイベント開催により、観光資源の発掘や関連施設の相互利用などについて協議をすすめます。

## 3 スポーツイベント・各種競技大会の充実

### (1) 現状と課題

スポーツイベントは、スポーツ愛好者にとって日常的なスポーツ・レクリエーション活動の成果の発表の場であり、日頃スポーツに親しむ機会の少ない人にとってはスポーツに取り組むきっかけづくりとなります。また、イベント参加者相互や地域住民との交流の場ともなるため、イベントの充実はスポーツに親しむ市民の増加や地域の活性化にもつながります。

本市では、市内外の人を対象としたさくらマラソン大会や市民を対象とした市民スポーツ大会を継続して開催しています。県では、高齢者を対象とした豊の国ねんりんピックや県障がい者スポーツ大会を開催するなど、一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて気軽に参加できる機会を提供しています。

また、市内各地域では、地域住民を対象に各種スポーツイベントが開催されていましたが、昨今のコロナ禍により大半のイベントは開催できていない状況です。

今後は、参加者数の減少や参加年代の偏りが課題となっているため、多くの市民が参加できるよう、実施方法や時期、内容の充実について検討していく必要があります。

## (2) 目標

夢や希望を与えるスポーツイベントとなるよう実施方法の工夫や時期・効果的な広報活動、文化イベントとの同時開催などを検討し、地域の活性化を目的とした事業の推進に努めます。

## (3) 具体的な取組

### ①地域振興協議会等の地域イベントの充実・支援

- 学校や地域振興協議会・スポーツ少年団・老人会や女性団体、地区スポーツ協会や競技団体等と連携を図り、子どもから高齢者までが多様なスポーツに親しめる機会の提供に努めます。
- 地域の子どもを地域の宝として育てるため、気軽にスポーツを体験でき、地域交流ができる内容の検討を行い、子どもから高齢者まで幅広い年代が積極的に参加できるイベントを開催するなど、地域振興協議会の活動を支援します。
- 健康・生きがいづくりや介護予防に対する意識の高揚を図るとともに、地域間・世代間交流を通じて、活力ある地域コミュニティづくりを推進します。

### ②地区スポーツ協会や競技団体等との連携

- 子どもから高齢者までのすべての年代が活動できるようなスポーツ環境を整備し、その活躍を情報発信することにより、市民に夢や希望、活力を与えるとともに、次世代のアスリートをめざす子どもたちの育成を支援します。
- 地域のアスリートや全国で活躍する地元出身アスリートと交流できるスポーツイベントを企画し、意識高揚につながるような事業を開催します。
- 全国トップレベルの大会やキャンプについて、体育施設の整備をはじめ、諸条件の整備に努め、誘致を促進します。



【プロ野球チームによる臼杵キャンプ】



【大学野球部による臼杵キャンプ】

## 4 学校体育施設の充実と有効活用

### (1) 現状と課題

学校体育施設は、地域の身近なスポーツ施設であるとともに、地区住民との交流を生むコミュニティースペースとして重要な役割を担っています。近年「地域とともにある学校づくり」の一環としても、地域住民の求めに応じて小・中学校では、ほぼ100%が体育施設を開放し、地域住民の交流の拠点としても利用されています。今後も、地域交流を促進するため、誰もが活用しやすい施設環境を整える必要があります。

### (2) 目標

学校体育施設が地域のスポーツ資源として有効に活用されるように、学校と教育委員会が連携を図りながら、環境整備に努め、利用促進を図ります。

また、学校と地域の指導者との交流を図るなど、地域住民が日常的にスポーツに取り組み、交流できる場づくりを推進します。

### (3) 具体的な取組

#### ①学校体育施設の整備・充実

国の交付金や補助金等を有効活用し、学校体育施設の整備・充実に努めます。既存の施設を改修する場合は、利用状況や利用者ニーズを十分考慮したうえで、ユニバーサルデザインや緑化等に配慮するなど、誰もが利用しやすい施設整備に努めます。

#### ②地域交流の場づくり

廃校となった体育館の利用方法や使用料などについて、地域と十分協議し利用促進のために適宜見直しを行います。また、限定された地域のみで利用する体育館については、管理・運営を地域へ委託することも検討します。



【旧中臼杵小学校体育館】

### III 基盤づくり

#### 1 スポーツボランティアの育成

##### (1) 現状と課題

スポーツボランティアとして活動することは、個人のスポーツへの興味・関心を高めるとともに、生きがいづくりや世代間を超えた交流の場づくりも期待されます。

なかでも、各地区スポーツ協会員やスポーツ推進委員として積極的に関わってくださる方々の存在は、本市スポーツ活動の推進に中心的な役割を担っていただいている。

また、さくらマラソン大会では、白杵高校陸上部が積極的に関わり、ボランティア活動を中心にイベントを盛り上げていただいております。

今後は、スポーツイベントの参加者募集とともにボランティアの募集も積極的に行い、ボランティアが継続して活動できる機会の提供や研修機会の創出により、本市スポーツ活動の推進に努める必要があります。

##### (2) 目標

一人でも多くの市民がスポーツイベントなどでボランティア活動に継続して参加できるよう、各競技団体やスポーツ協会員、社会福祉協議会等と連携し、活動機会の提供やスポーツボランティアの発掘と育成のため、研修会等の開催を継続します。

##### (3) 具体的な取組

###### ①ボランティア参加者の発掘と拡大

○ホームページ等を活用して、スポーツボランティアの活動内容や参加者の体験談等を積極的に紹介することにより、ボランティア未経験者への動機づけや意識啓発を図ります。

○スポーツボランティア活動を効果的、効率的に進めるため、各種スポーツイベントでのスポーツボランティアへのニーズ把握に努めます。また、スポーツボランティア活動の推進を目的に、県スポーツ協会や本市スポーツ協会を中心に、関係団体との連携を強化します。

###### ②研修会の開催とボランティア登録

○スポーツボランティアに関する知識の少ない方を対象とし、活動内容や意義を学ぶ初心者向け研修会を関係機関と連携し、開催に努めます。

## 2 行政組織とスポーツ関係団体との連携・充実

### (1) 現状と課題

本市では、平成27年に行財政運営の長期的・総合的な指針となる、第2次総合計画「日本の心が息づくまち～『おだやかさ』と『たくましさ』を未来につなぐ～」を策定しました。この実施計画において、「スポーツ環境の充実」「スポーツで健康づくり・体づくり」を具体的な施策の一つとしています。なかでも、「ひとり1スポーツ」を日常生活の中で実践していくことで健康づくり・生きがいづくりをめざし、ウォーキングやユニバーサルスポーツなどの普及に努め、子どもから高齢者までの健康・体力づくりの推進、スポーツを通じた障がい者の社会参加の促進、競技力の向上などを推進する必要があります。

### (2) 目標

本市スポーツ活動の推進に関わる行政組織間の連携を強化し、横断的なスポーツ推進体制を整備します。なかでも、健康・体力づくりや競技力の向上などに取り組むスポーツ関係団体の活動を支援し、市民「ひとり1スポーツ」の定着に努めます。

### (3) 具体的な取組み

#### ①横断的なスポーツ推進体制の整備

○市民の健康・体力づくりやスポーツ活動の推進に係る行政組織の連携・協力を一層推進するため、本市スポーツ協会総会やスポーツ推進委員協議会等の開催を通して、意見集約を図り、横断的なスポーツ推進体制を整備します。

#### ②市スポーツ協会の充実

○本市スポーツ協会は、各種アマチュア競技団体・地域スポーツ団体・学校体育団体で組織され、「競技力の向上」「スポーツ医・科学の研究」「スポーツ少年団の育成」「地域スポーツの活性化」「総合型地域スポーツクラブの育成」など、スポーツ推進の中核を担い広範にわたって事業を展開しています。今後も、各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の充実を行い、関係団体との連携を強化していきます。

#### ③関係団体への支援

○スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき、市教育委員会が委嘱した地域スポーツ推進の中核となる貴重な人材です。これまでの役割に加え、地域住民と行政とを結ぶコーディネーターとしての役割を期待されていることから、研修会等によりスポーツ推進委員の資質の向上と活動の活性化を図ります。

○小・中学校体育団体は、学校における体育・スポーツの推進・発展を通して、児童・生徒の心身の健全な発達と各競技種目の競技力向上に取り組んでいます。今後もスポーツ

少年団活動や中学校運動部活動を中心とした生徒のスポーツ環境の整備・充実を図るとともに、地域のスポーツクラブなどとの連携を強化していきます。

○スポーツ医・科学の研究成果を、競技力向上対策・スポーツの安全対策・子どもたちの発育・発達に及ぼす効果、疾病の予防対策などに活用するため、大学や県成人病検診センター等の医療機関や関係機関とのつながりを深めます。



【スポーツ推進委員研修会】

### 3 スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備

#### (1) 現状と課題

本市のスポーツ施設の整備・充実と市民のスポーツ活動を支える支援体制の整備は、スポーツ推進の基盤として極めて重要です。諏訪山体育館は全面改修工事を終えましたが、他の野球場をはじめとする多くの体育施設は、老朽化により修繕・改修が必要な箇所も有しています。今後も継続して、利用者のニーズに応じた最良の整備と効率的な管理・運営に努める必要があります。

また、高齢化が進む中で介護予防と健康づくり・体力づくりの面からのトレーニング方法を確立するため、指導者の新規養成や知識の向上を図る取り組みを行うなど、市民のスポーツ活動の支援についても検討する必要があります。

#### (2) 目標

スポーツ施設の計画的な整備・充実を継続し、本市スポーツ活動推進の拠点としての基盤づくりを推進します。

#### (3) 具体的な取組

##### ①スポーツ活動の場の整備、充実

- 昨今のコロナ禍の中でも比較的取り組みやすいウォーキングの普及を目的に、市内16ヶ所に設置したウォーキングコースの周知を徹底し、利用促進を図ります。
- 令和3年1月に全面改修工事を終え、リニューアルオープンした諏訪山体育館の利用促進を図ります。なかでも、有酸素トレーニング機器の部屋や筋力アップトレーニング機器を増設したトレーニング室において、トレーナーにより効果的なトレーニング方法に

についての教室等を開催するなど、初心者からトップレベルの競技者まで、幅広い市民を対象とするトレーニングの拠点としての機能充実を図ります。また、指定管理者と連携し施設内でのマナーについて周知を行うなど、誰もが快適に利用できる施設運営に努めます。

○新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図り、利用者が安心して利用できる社会体育施設の環境整備に努めます。

## ②専門的指導者による相談・指導の充実

○スポーツ外傷・障がいの予防対策、子どもの発達面におけるスポーツの効果、高齢者に適したスポーツ活動等について、スポーツドクターや競技団体との連携により、定期的な研修会等の実施に努めます。また、ニーズに応じた情報提供や、医療や保健と連携した健康相談・運動指導を実施できるようスポーツ活動の支援体制の整備を図ります。



【スポーツ少年団指導者及び母集団研修】

## 市内屋内スポーツ施設

大分県行政図

平成十五年九月

番号	施設名	建築年	実施可能な競技	備考
①	諏訪山体育館	1982年	・バドミントン ・バスケットボール ・バレー・ボール ・フットサル ・バウンドテニス ・卓球 他	
②	北中学校体育館	2001年	・バドミントン ・バスケットボール ・バレー・ボール 他	夜間のみ
③	西中学校体育館	1995年	・バスケットボール ・バレー・ボール ・卓球 他	夜間のみ
④	東中学校体育館	1997年	・バスケットボール ・バレー・ボール ・ボドミントン 他	夜間のみ
⑤	野津中学校体育館	2011年	・バスケットボール ・バレー・ボール ・剣道 他	夜間のみ

番号	施設名	建築年	実施可能な競技	備考
⑥	臼杵市弓道場	1983年	・弓道	
⑦	臼杵市相撲場	不明	・相撲	
⑧	臼杵市柔剣道場	1985年	・剣道 ・柔道 ・空手道 他	
⑩	宮本地域体育館	1991年	・卓球 ・バドミントン 他	
⑪	田野地域体育館	1975年	・バドミントン ・バウンドテニス 他	
⑫	都松地域体育館	1979年	・バドミントン ・ミニバレー・ボール 他	
⑬	戸上地域体育館	1978年	・バドミントン ・ミニバレー・ボール 他	
⑭	中臼杵地域体育館	1985年	・ミニバレー・ボール 他	

## 市内屋外スポーツ施設

大分県行政図

平成十五年九月

番号	施設名	照明施設	実施可能な競技	備考
①	臼杵市民球場	○	・軟式野球 ・ソフトボール	
②	多目的グラウンド	○	・軟式野球 ・硬式野球 ・サッカー ・ソフトボール ・陸上競技 他	
③	テニスコート（人工芝） 臼杵市テニスコート	○	・テニス ・ソフトテニス	
④	臼杵市民グラウンド	×	・軟式野球 ・サッカー 他	小学生のみ使用可能
⑤	東中学校グラウンド	○	・軟式野球 ・サッカー 他	夜間のみ
⑥	南中学校グラウンド	○	・軟式野球 ・サッカー 他	夜間のみ

市内屋外スポーツ施設

番号	施設名	照明施設	実施可能な競技	備考
⑩	吉四六ランド球場	○	・軟式野球 ・硬式野球 ・ソフトボール 他	
⑪	吉四六ランド陸上競技場	×	・軟式野球 ・硬式野球 ・サッカー ・ソフトボール ・陸上競技 他	
⑫	吉四六ランド テニスコート（人工芝）	○	・テニス ・ソフトテニス	
⑬	吉四六ランド ゲートボール場	×	・ゲートボール	
⑭	中臼杵地域グラウンド	×	・ソフトボール 他	
⑮	深江地域グラウンド	×	・ゲートボール ・グラウンドゴルフ 他	
⑯	宮本地域グラウンド	×	・ゲートボール ・グラウンドゴルフ 他	
⑰	戸上地域グラウンド	○	・グラウンドゴルフ 他	
⑱	都松地域グラウンド	×	・グラウンドゴルフ 他	
⑲	田野地域グラウンド	○	・軟式野球 ・ソフトボール 他	
⑳	川登グラウンド	×	・ゲートボール ・グラウンドゴルフ 他	
㉑	南野津グラウンド	×	・軟式野球 ・グラウンドゴルフ 他	

## 4 スポーツ情報の収集と提供

### (1) 現状と課題

市民のスポーツニーズに応えるためには、より多くの情報を収集するとともに、市民にとってわかりやすい方法で提供できる情報提供システムの整備が必要です。

本市では現在、インターネットにより諏訪山体育館等の施設予約ができるシステムを導入しています。

また、市報やホームページ等を活用してイベントの開催予定を掲載するなど、情報の定期的な更新に努めていますが、質の高い最新の情報を収集し発信する必要があります。

若者はソーシャルネットワークサービス（以下、SNS）を利用して知人や友人からスポーツ情報を入手しているとも言われていますので、年代によるニーズや情報の入手方法を考慮したスポーツ情報の提供を行う必要があります。

現在、活躍している競技者の情報収集は、本市スポーツ協会を中心に行っていますが、本協会や市スポーツ少年団に登録していない本市出身選手の活躍も目立つため、新たな情報収集手段を模索し、情報を提供することでの、市民へ夢や感動を与える仕組みづくりも必要とされています。

### (2) 目標

市民が興味・関心を持ちスポーツ活動に主体的に取り組めるよう、スポーツ情報の収集に努めます。また、ホームページや市報等で提供する情報内容の充実と共有化・ネットワーク化をめざします。

### (3) 具体的な取組

#### ①市スポーツ協会や競技団体と連携した取組

- 市民が必要とするスポーツ情報や市民の活躍の状況についての情報収集を、タイムリーに行える仕組を検討します。
- 国際大会や全国大会等で活躍する本市出身のアスリートの姿は、市民に夢や希望を与える、子どもたちが郷土を誇りに思う心を醸成します。また、功績を称えるため市長賞詞制度を活用するなど、活躍した選手の情報を市民に広く発信します。

#### ②市報やホームページ・マスコミ等と連携した情報提供

- 市民ニーズに対応したスポーツ情報の提供に努めるとともに、報道機関と連携し、新聞やテレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・広報誌やSNSなど、多様な媒体を活用した情報提供に努めます。
- スポーツ施設の拠点となる諏訪山体育館や市民球場において、掲示板を設置するなど、スポーツに関する情報発信が行える仕組みづくりを検討します。



【白杵市スポーツ協会 FaceBook】

## 5 スポーツ推進のための財政基盤の確立

### (1) 現状と課題

スポーツ施設の整備・充実をはじめ、競技力向上の推進、大規模スポーツイベントの開催など、本計画に掲げる各種施策を推進するには、財源確保をはじめとする財政基盤の確立が不可欠です。

本市では、社会的な意義を有し、社会的な利益を生み出すものや地域振興につながるものについては、市単独の予算以外にも国や県の補助金活用を検討するなど、多様な財源確保に努めています。近年ではコロナ禍のような不安定な社会情勢が続く中、本計画に掲げる施策を長期的・安定的に推進するためには、財政上の措置を継続して取り組む必要があります。

### (2) 目標

本市のスポーツ推進に不可欠な財政基盤を確立し、財源を適切かつ有効に活用します。

### (3) 具体的な取組み

#### ①協賛企業とのパートナーシップの創出

- 協賛企業とのパートナーシップの創出に取り組むとともに、スポーツ振興のためのサポート制度等、新たな支援システムの必要性等について検討します。
- 県や近隣市、関係競技団体等との連携・協力のもと、財源確保に向けた具体的な取組の検討を行います。
- 予算を最大限に有効活用するため、経費削減及び事業の有効性について分析し、効果的な事業を効率的に実施します。

#### ②助成事業等の積極的な活用

- スポーツ振興くじ（toto）の助成事業をはじめ、自動販売機の設置やスポーツ振興財団等が行う各種支援事業の情報収集に努めます。

#### ③ネーミングライツ（命名権）の導入

- 体育施設等の利用者へのサービスの向上を図るため、ネーミングライツ（命名権）を活用し、独自の財源確保をめざします。また、ネーミングライツ契約企業とは、競技力向上を目的とした関係強化を図ります。

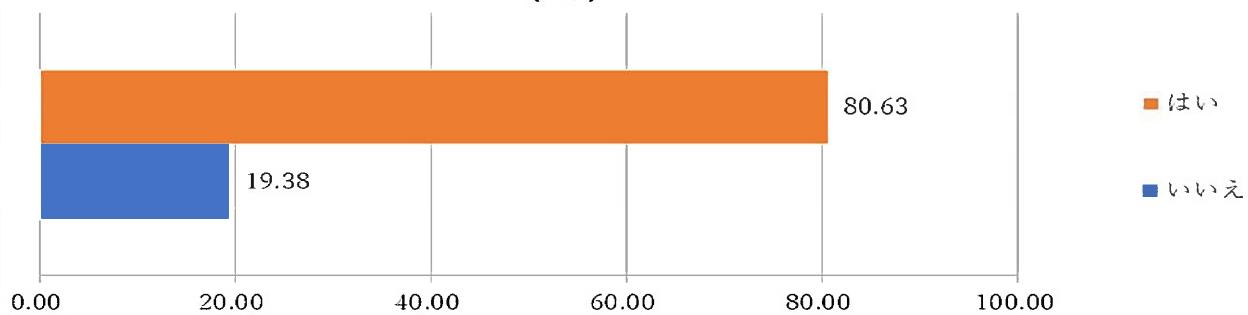
# 参 考 资 料

## 参考1：市民のスポーツ意識

○アンケート調査  
実施期間：令和4年1月～2月  
有効回答数：168名

### 1. スポーツに対する意識（図1）

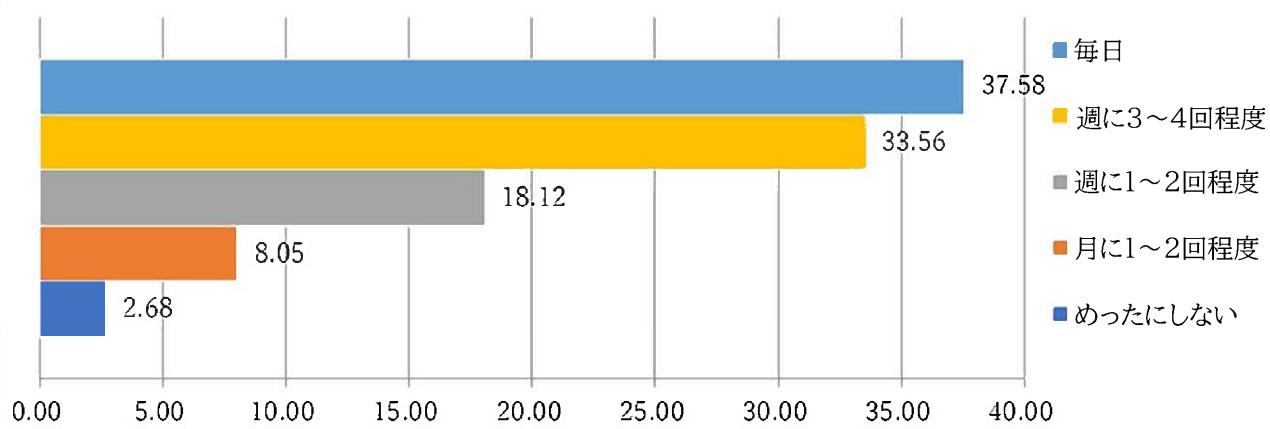
Q1 あなたはスポーツで体を動かすことが好きですか（%）



8割を超える人がスポーツ（運動）で体を動かすことが好きであると回答しています。

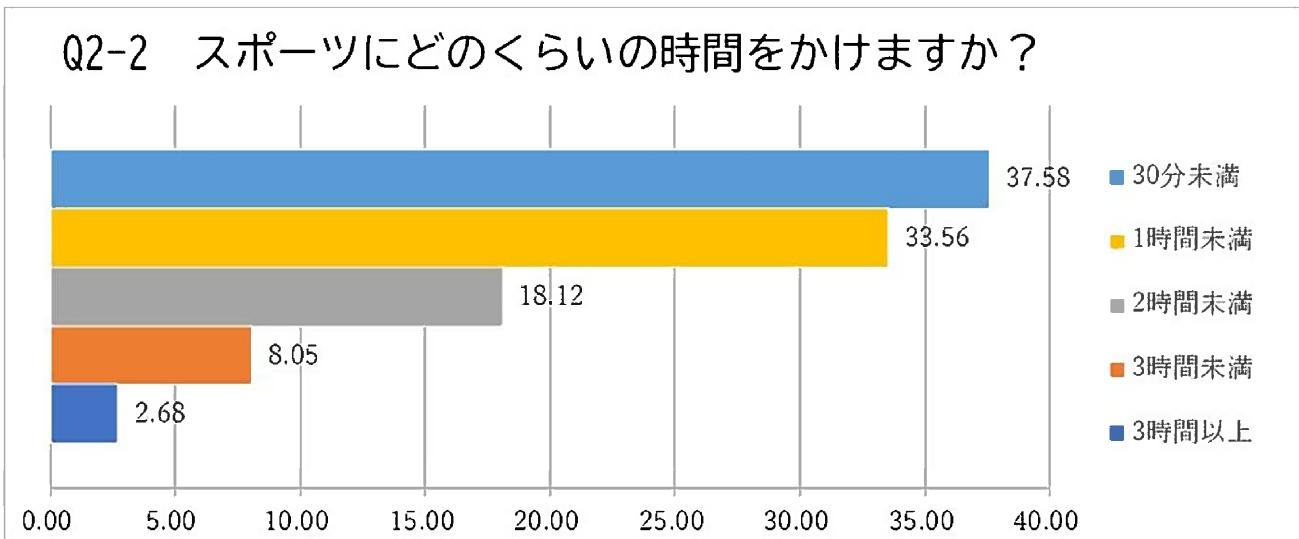
### 2. スポーツを行う頻度（図2）

Q2-1 スポーツ（運動）を行う頻度



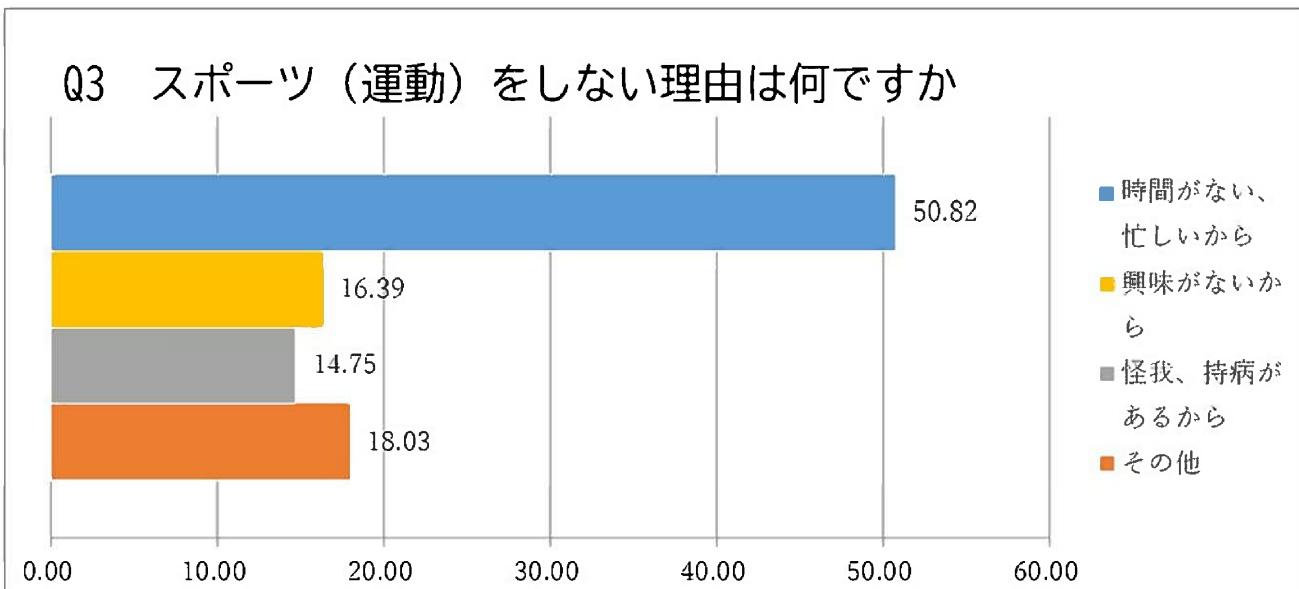
毎日運動する習慣がある人も多い一方、生産年齢人口の運動習慣が定着していないことが判明しました。

## 2-2. スポーツにかける時間 (図3)



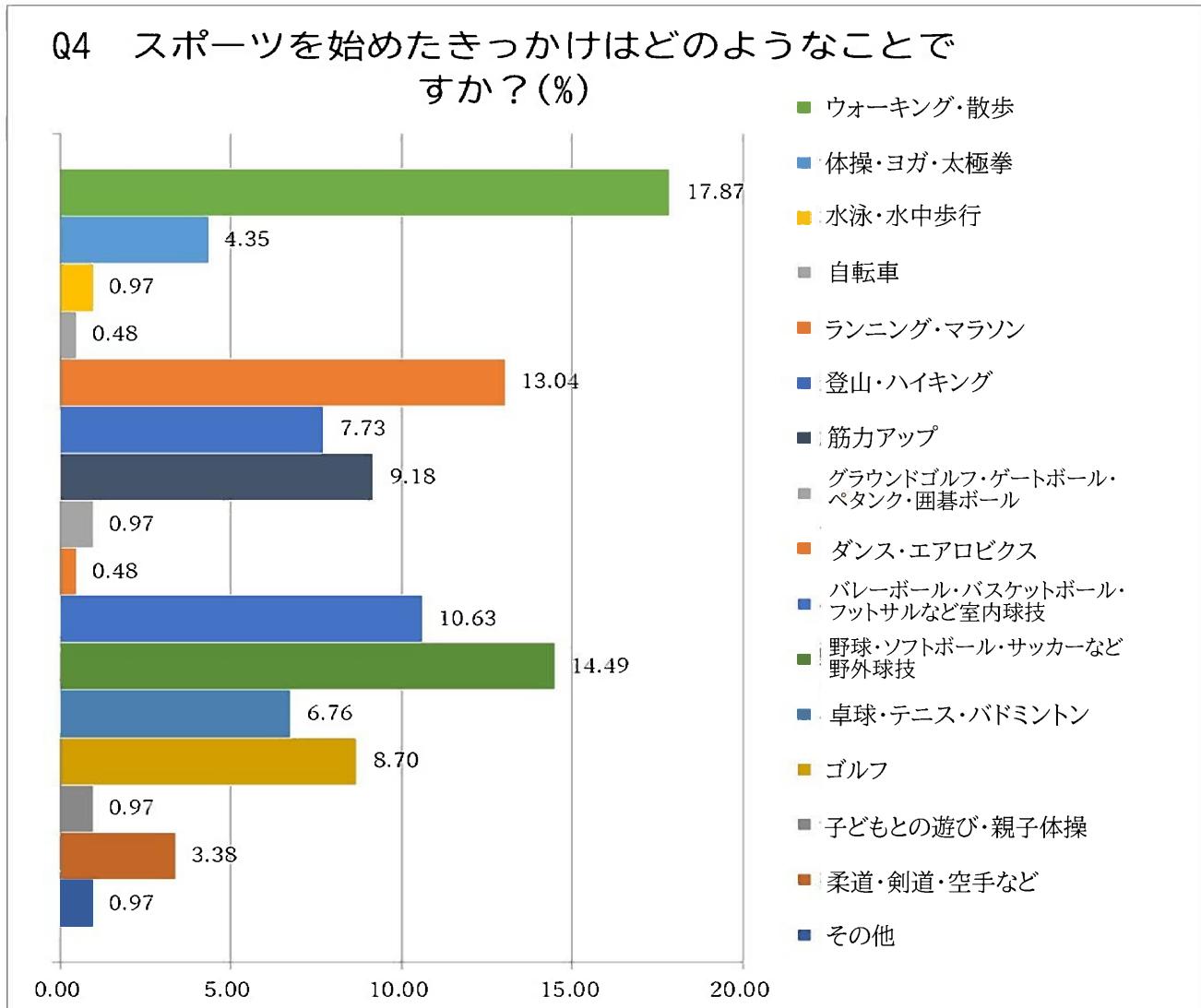
1時間未満が半数を占めるものの、週に3~4日以上継続してスポーツ（運動）をしている人が多いためスポーツ（運動）習慣が身についている人が多いです。

## 3. スポーツをしない理由 (図4)



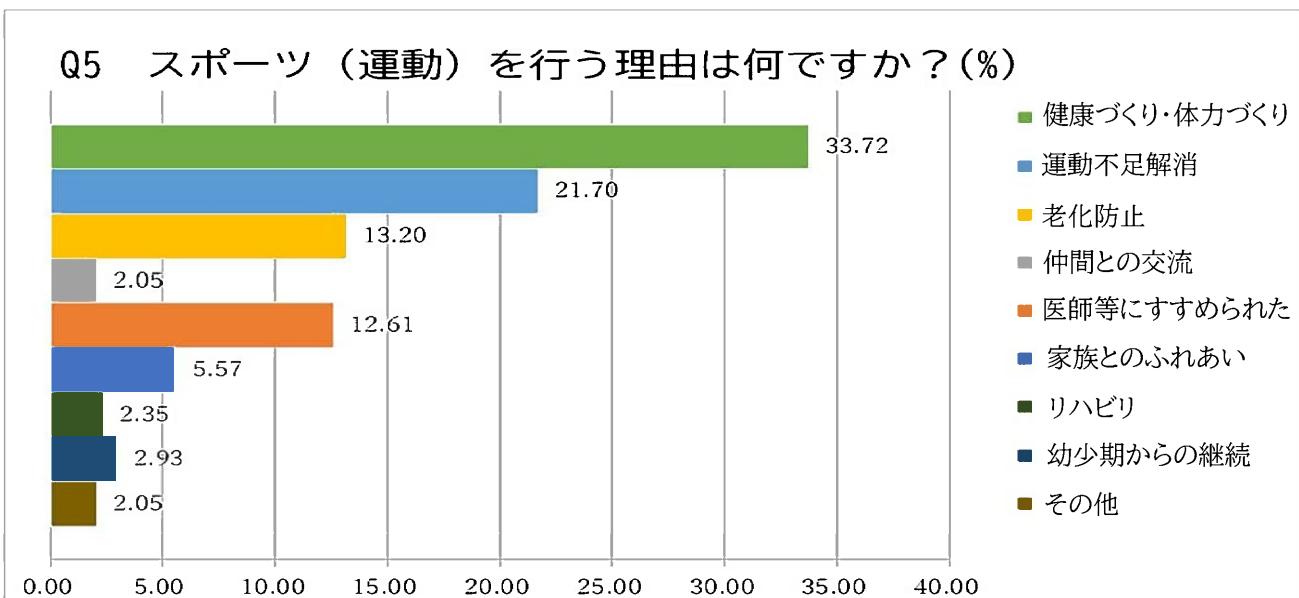
特に多く見られた理由が、子育てをしながら働いている世代は時間がなく、忙しいことが理由に挙げられていました。

#### 4. スポーツを始めたきっかけ (図5)



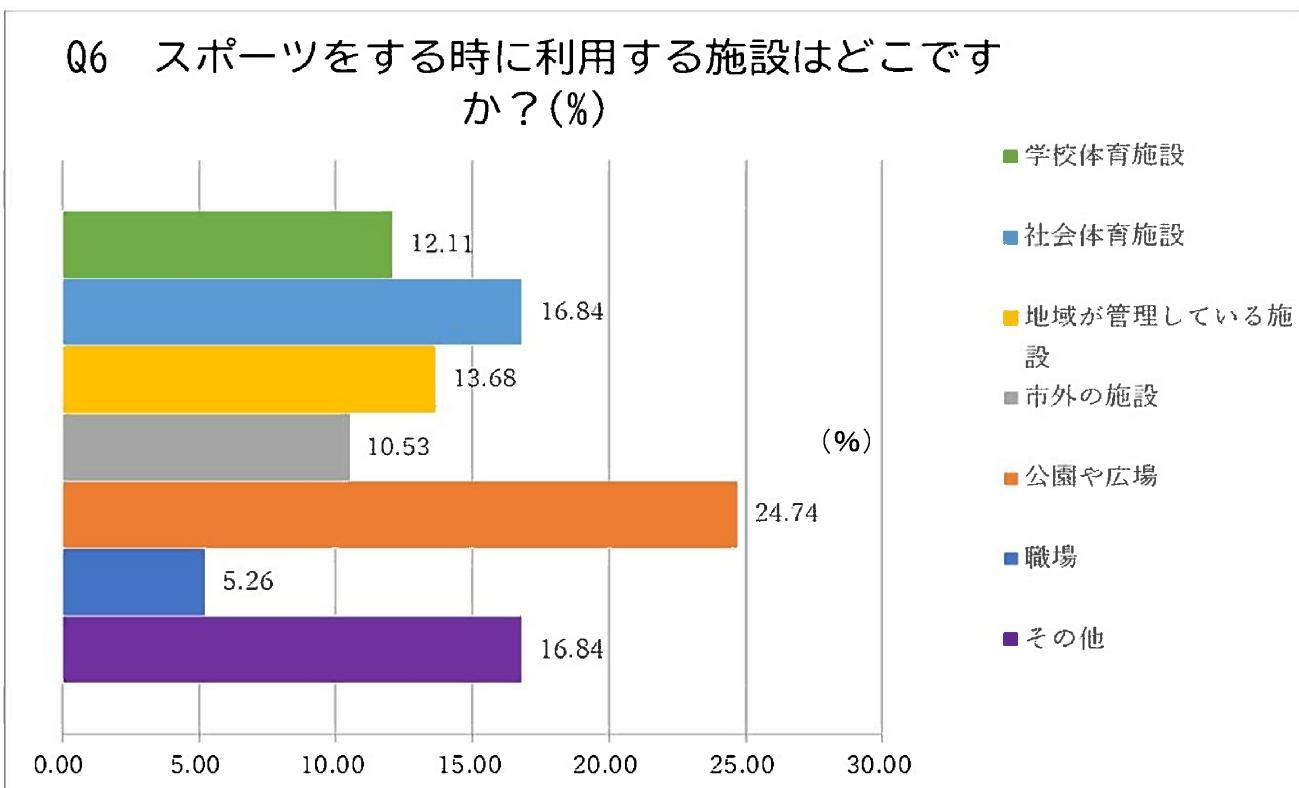
ウォーキングやランニングのような手軽に始められるものが30%と多く、比較的子供のころから接しやすい球技も15%と割合が高いです。また、ダンスやエアロビクスのように近年特に普及が進んでいるも高い割合を占めています。

## 5. スポーツを行う理由 (図 6)



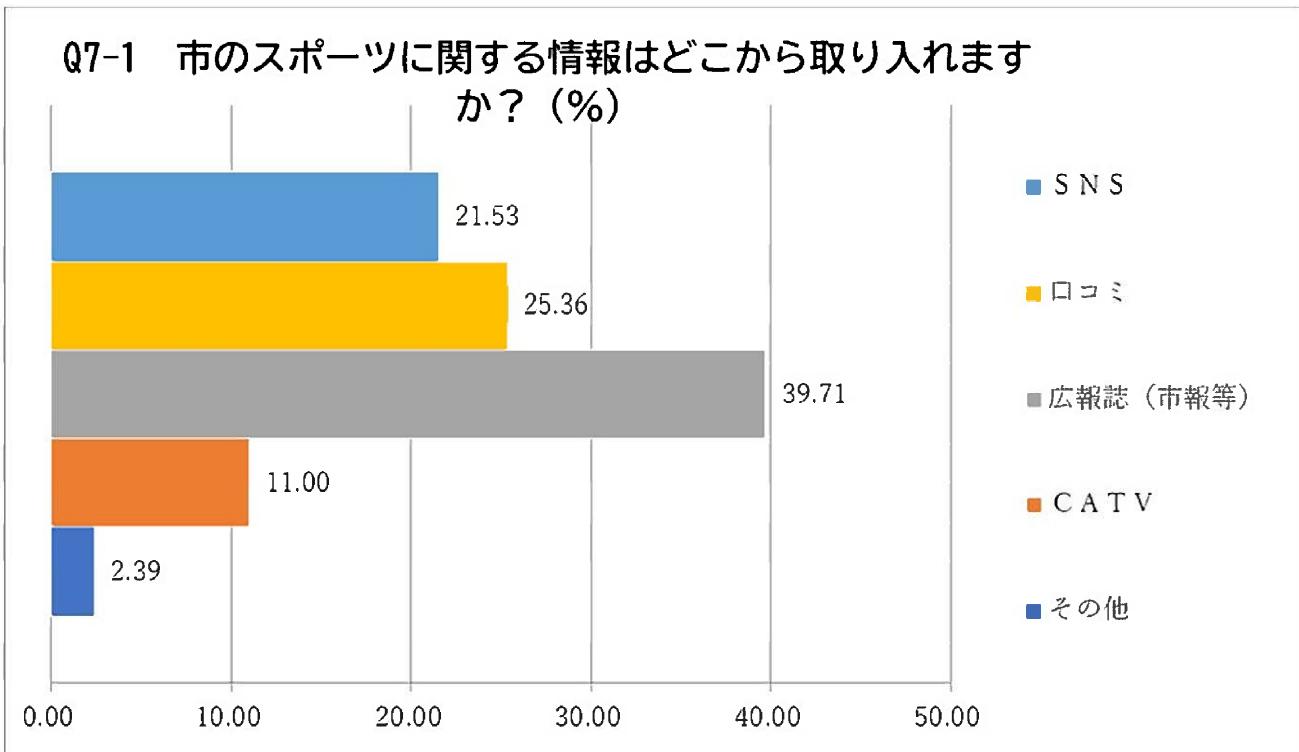
健康づくりや体力づくりが3割を超えており、半数以上が健康問題として行っていることが分かった。また、少なくない割合で人との交流を求めて行っていることもわかった。

## 6. スポーツをする時に利用する施設 (図 7)



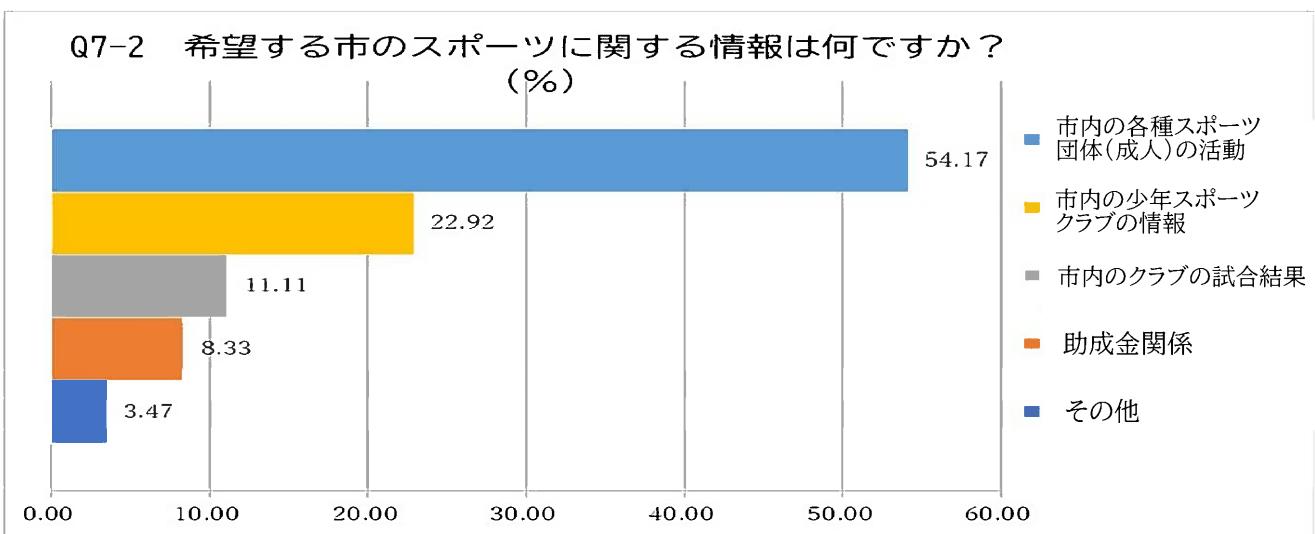
一番多い施設は、公園や広場となっており約4分の1を占めています。体育施設全体を合わせると約40%を占めます。市外の施設は10.53%です。

## 7-1. 市のスポーツ情報の収集先 (図8)



スポーツを取り入れる先は、広報誌が最も多くは約40%、次に多いのが口コミは約25%です。SNSで情報を求めている人も約20%と多くいるため、今後もSNSを使った周知が重要であることがわかりました。

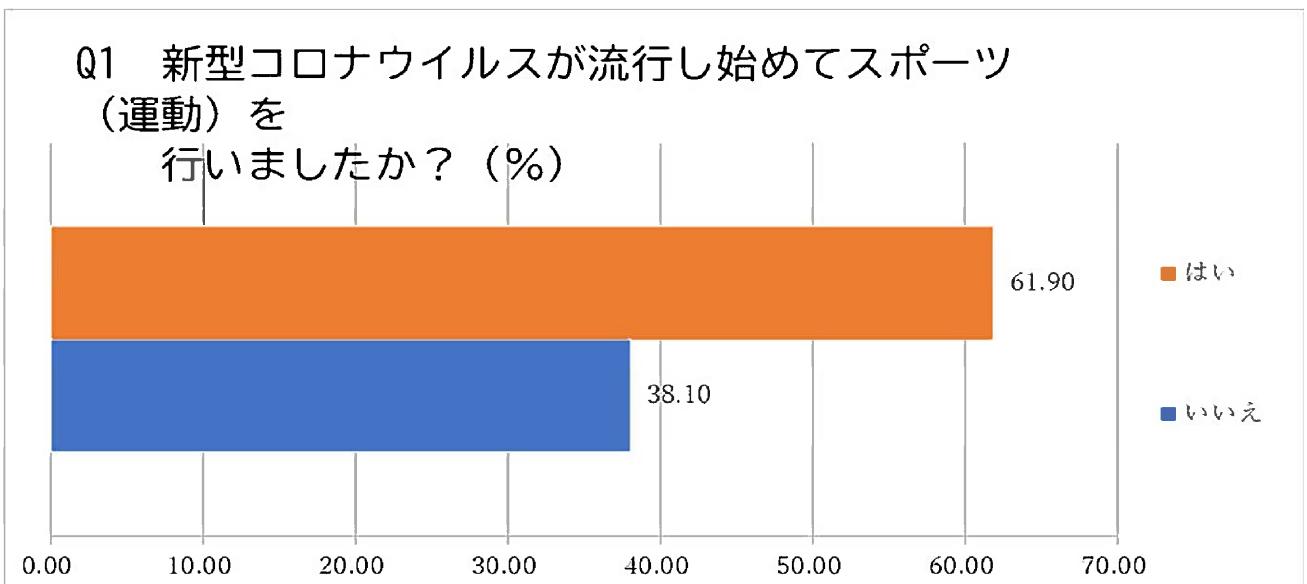
## 7-2. 希望する市のスポーツ情報 (図9)



市内の成人スポーツ団体の情報を欲している割合が半数を占めており、積極的に発信することが求められていることがわかりました。また、スポーツ少年団についての情報も約4分の1の割合で求められています。

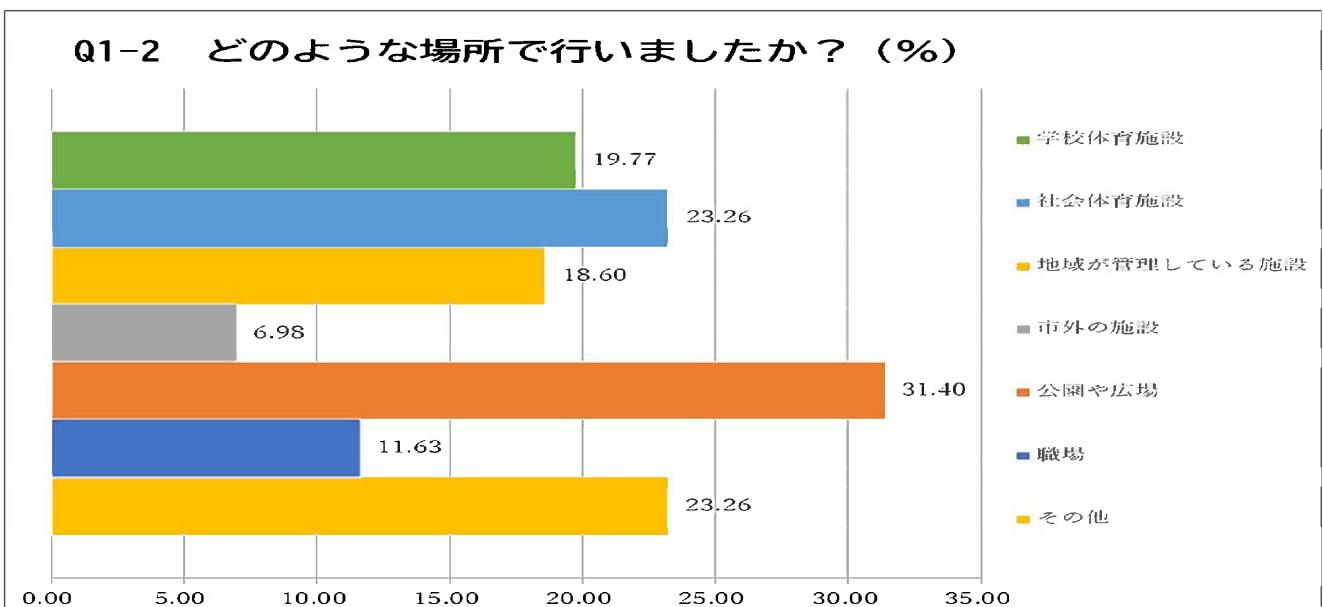
## コロナ禍におけるスポーツ習慣

### 1. 新型コロナウイルスが流行し始めてスポーツを行ったか (図10)



6割程度の人が運動を行ったと回答。『Q. スポーツに関する意識』で8割の人が「体を動かすことが好き」と回答しているため、コロナ禍により2割程度の人がスポーツをするのに躊躇をしていることがうかがえます。

### 2. どのような場所で行ったか (図11)



『Q.6. スポーツをするときに利用する施設』の回答時よりも屋内・屋外でのスポーツの割合はともに増加している。一方で、市外施設でのスポーツを行った割合は減少しており、コロナ禍でのスポーツを行う場所の変化がうかがえる。

## 臼杵市スポーツ推進計画推進委員会 設置要綱

### (設置目的)

第1条 スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第2条の基本理念に則り、同法第10条第1項の定めにより策定した、臼杵市スポーツ推進計画(以下「推進計画」という。)に基づきスポーツの推進と推進計画の進行管理を行うため、臼杵市スポーツ推進計画推進委員会(以下「推進委員会」という。)を設置する。

### (所掌事務)

第2条 推進委員会は、スポーツ推進のために次の事項を協議する。

- (1)臼杵市のスポーツ推進に関すること。
- (2)臼杵市スポーツ推進計画の進行管理に関すること。
- (3)その他目的達成に必要な事項

### (委員の構成等)

第3条 推進委員会の委員は、臼杵市スポーツ推進計画策定委員会委員を基本とし、次に掲げる委員を教育長が委嘱し、又は任命する。

- (1)臼杵市体育協会加盟団体代表者
- (2)臼杵市スポーツ推進委員代表者
- (3)小中学校等学校関係代表者
- (4)各種団体等代表者
- (5)関係行政機関の代表者
- (6)学識経験者
- (7)その他必要と認められる者

2 委員の任期は、委嘱又は任命する日から2年とする。ただし、任期途中で委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任委員の任期が終了するまでの間とする。

### (委員長及び副委員長)

第4条 推進委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は推進委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第5条 推進委員会の会議は、必要に応じて教育長が招集し、委員長が議長となる。

2 教育長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

(経費)

第6条 推進委員会の運営のための必要な経費は、臼杵市教育委員会の予算から支出する。

(事務局)

第7条 推進委員会の事務局を、臼杵市教育委員会事務局内に置き、庶務を担当する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、推進委員会の運営に関して必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成28年4月1日から施行する。

## 臼杵市スポーツ推進計画推進委員会委員名簿

○委員

	氏名	所属	備考
委 員	吉田 史郎	臼杵市スポーツ協会	臼杵市スポーツ協会代表
委 員	尾崎 康	臼杵市スポーツ推進委員協議会	臼杵市スポーツ協会関係団体代表
委 員	山下 美香	臼杵市スポーツ推進委員協議会	臼杵市スポーツ協会関係団体代表
委 員	稗田 勝一	臼杵市スポーツ協会水泳協会	臼杵市スポーツ協会競技部代表
委 員	三嶋 寛文	第11地区スポーツ協会	臼杵市スポーツ協会支部代表
委 員	川野 長仁	第17地区スポーツ協会 臼杵市スポーツ少年団本部	臼杵市スポーツ協会支部代表 臼杵市スポーツ少年団副本部長
委 員	亀井 真也	臼杵市中学校体育連盟	小中学校代表
委 員	杉野 等	臼杵市保険健康課	保険健康課政策監

○事務局

	氏名	所属	備考
事務局長	川辺 宏一郎	社会教育課長	社会教育課
事務局	東 正吾	社会教育課総括課長代理	社会教育課
事務局	板井 祐哉	社会教育課主任	社会教育課
事務局	板井 陽介	社会教育課主事	社会教育課

臼杵市スポーツ推進計画（平成 28 年度～令和 7 年度）  
～「ひとり」スポーツの実戦で健康づくり・体力づくり・地域づくり・生きがいづくり～

◆発行◆

臼杵市教育員会社会教育課

〒875-0041 大分県臼杵市大字臼杵 2-107 番 562

電話 0972-63-6444